

要 旨

コンピュータの発達と今後の日本語教育の行方

9N14006

丹波真奈美

近年のコンピュータの目覚ましい発達・普及を背景に、ICT はわれわれの生活の隅々に行き渡りつつあり、教育をはじめとする様々な分野での利活用が始まっている。日本語教育の分野においても、新しい ICT 技術を用いた教育が始まっており、それは学習者にも求められるようになってきている。そこで、本稿ではコンピュータの発達と今日の日本語教育をそれぞれ概観し、コンピュータの発達が日本語教育にあたる影響と、その未来について考察した。

2. では、今日までのコンピュータの発達を、通信機器・通信速度・インターネットサービスの側面から概観した。通信機器の高性能化と通信速度の高速化によりインターネットサービスは動画や音声など大容量のコンテンツを扱えるようになり、さらにスマートフォンの普及でソーシャルメディアの拡大と定着が確認された。それは、ソーシャルメディア社会の到来と呼ばれ、この現象は日本国内だけでなく、先進国と発展途上国を問わず世界的に急速に進んでいることも確認した。ソーシャルメディア社会が人々にどのような変化をもたらしたのかについて、コミュニケーションとメンタリティの点から明らかにした。

続いて3. では、今日の日本語教育の変化の大きな要因として、ニューカマーの急増による社会性の獲得、新しい学習者の出現、Can-do statements による自己評価の導入の3点を挙げ、それぞれについて明らかにした。

4. では、2. および3. を踏まえ、ICT を利活用した日本語教育が進む未来について考察を行った。まず、ソーシャルメディアの普及によって起こったコミュニケーションの変化が教師と学習者、また学習者同士の関係性に良好な影響を与えることを確認した。そして、ICT 教育の定着が与える国内の日本語教育への影響として、日本語教育機関で学ぶ初級学習者の減少を挙げた。続いて初級段階の縮小が、日本語教育機

関の高度化・専門化、初級の質の変化、さらに日本語教育の場の広がりが起こることを提示し考察した。

最後に5. では、ICT と共存していくこれからの日本語教育において、日本語教師に問われる資質と役割の認識、日本語教育機関・ボランティア日本語学校などの組織間を超えた繋がり、ICT を利用した教材の分類と評価の妥当性、の3点について今後の課題として述べた。